

【10月22日】

風組の生徒たちが 東濃特支学校のOさんと交流しました



この日は、北中校区の小学校で過ごし、現在東濃特別支援学校在学のOさんが、風組生徒3名とリモートで交流しました。以前も交流したはずなのに、妙に緊張していた風組の生徒たちでしたが、交流が進むにつれて本来の調子が出てきました。Oさんを喜ばせるために一人一人が考えたカレーライスのアイデア発表や、何度も何度も練習したボディーパーカッションやハンドベルの披露を行いました。



小中学校と特別支援学校の間には、「居住地交流」というものがあります。地元に住居していても特別支援学校に通っている児童生徒がいる場合、地元の仲間と交流を深めるために無理がない程度で定期的にコンタクトを取ります。進んだ学校が違うだけで、同じ地元で育った仲間と疎遠になってしまうのは残念です。頑張りの舞台は違っても、互いの努力や様子を知り合っ、よい関係を作ってほしいものです。



画面の中のOさんは、特別支援学校の先生方と一緒に、風組の仲間の発表を楽しんでくれました。風組の生徒たちの中には、Oさんに喜んでもらえた喜び、練習したことが十分発揮できた喜びが生まれたようで、交流が終わっても興奮冷めやらぬ様子でした。

移動しなくても簡単につながるリモートという方法は、これからも交流を盛んにし、生徒たちのつながりをより強いものにしてくれそうです。

